

## 「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室」& 「からだであそぼうウィーク」の取組

～放課後の“自由な遊び場”を通じて体力の向上を図る～

### ① 「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室」(愛称:「わくわく」)

#### 目的・理念

「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室」は、今の子供たちは自由な遊び場が減っていることから、子供たちに遊び場を提供することを目的に実施しています。「放課後子ども教室」に関わる大人たちは、子供たちが協力して遊ぶ、工夫して遊ぶ、新しい遊びを考える等子供たちが自ら考えて活動できるように支援しています。

実施場所	開催日数
校庭	102日(平成23年4月～12月)
開催日時	参加人数
月曜日から金曜日までの火曜日を除く平日(雨天中止) 4月～10月及び3月 放課後から午後5時まで 11月～2月 放課後から午後4時まで	延べ10,870人(平成23年4月～12月) (うち特別支援学級「みどり学級」参加人数 延べ881人)

#### 「放課後子ども教室」を支える人たち

##### ①「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室推進委員会」(会長 田島 尚樹さん).....

会長以下8名の推進委員(第五小副校長、第五小地区・町会長、第五小PTA本部役員、第五小事務、学童保育指導員、保護者、地域ボランティア)

学期に1～2度推進委員会を開催し、運営について話し合います。また、PTA等に携ってきた委員が中心となり、広報「ほうかご わくわくだより」の発行、学習アドバイザーの配置、遊具の購入、イベントの企画等を行っています。

##### ②安全管理員 登録6名.....

八王子市シルバー人材センターから派遣され、常時4人で子供たちが安全に遊ぶことができるように見守っています。

##### ③学習アドバイザー 登録8名.....

学習アドバイザーは、「みどり学級」の補助教員4名の他、障害のある子供に関わった経験のある地域の方や学生が担っています。「みどり学級」の子供のサポーターとして常時3名を配置し、子供たちがブランコやうんていで遊ぶ際の補助や他の子供たちと遊ぶ時の仲立ちをしています。

また、推進委員会とは別に、月に1度連絡会議を開いています。運営側の推進委員、日常子供たちと接している安全管理員・学習アドバイザーの三者が定期的に意見交換することで情報の共有ができ、その結果、子供たちの遊びや安全管理上の“気づき”に対して協力を求めたり、改善を図るなど速やかに対応できるようになりました。



### 「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室」の活動について

推進委員の沓澤美保さん、大石祥子さんに聞きました

**沓澤美保さん** 発足当初から、子供たちが安心して遊べる場所「安全な公園」として、校庭での自由遊びをメインにしています。

外で体を使って遊ぶことは、運動につながるだけでなく、よく食べて、よく寝るという生活リズム、さらには学習意欲の向上にもつながっています。自由遊びの中で、子供たちが自分で遊びを考え、みんなでやってみるなど子供たち自ら考えて活動することも大事だと考えています。

「みどり学級」の子供たちは、自分の責任で遊ぶことが難しいため、当初は安心して参加できる体制が整っていなかつ

たのですが、学習アドバイザーの配置により、多い時は14～5人が参加しています。みんなと遊ぶことにより、楽しい経験をたくさん積みながら、運動面やコミュニケーション能力の向上、また、「順番を守る」などの決まりを身に付けられることを期待しています。

**大石祥子さん**

「放課後子ども教室」立ち上げの時から、校庭でみんなが遊べるようにとボールやフラフープを用意しました。その後、子供たちの要望も聞いて一輪車や竹馬を購入したり、コマやけん玉、輪回し等、昔遊びの遊具を追加したりするなど遊びのバリエーションを増やす工夫をしてきました。

また、個人の遊具の持ち込みを禁止しているため、学校での縄跳び指導の期間に合わせて、「放課後子ども教室」でも縄跳びをたくさん購入して練習できるようにもしています。

放課後の時間に校庭で自由に遊ぶことが、子供たちの日課になっています。子供たちは、自分たちで考えて校庭を使っていますが、学童クラブの子と一緒に遊んだり、違う学年でサッカーをするなど子供たちの交流の場にもなっています。



「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室」の様子



「八王子市立第五小学校地区放課後子ども教室」推進委員 大石 祥子さん・沓澤 美保さん

### ② 「からだであそぼうウィーク」

平成23年11月28日(月)から12月7日(水)までのうち7日間にわたり、八王子市立第五小学校で「からだであそぼうウィーク」が実施されました。

#### (1)「からだであそぼうウィーク」とは

東京都教育委員会では、平成24年度から教壇に立つ小学校教諭新規採用予定者を対象に、平成23年12月から平成24年2月までの1～2週間、都内公立小学校40校の協力を得て、子供とともに楽しみながら体を動かす機会として「からだであそぼうウィーク」を実施しました。

「からだであそぼうウィーク」は、新規採用予定者が児童とともに体を動かす楽しみを実感させ、指導技術を身に付けることを目的に、5・6時間目の体育の授業に参加したり、放課後遊びを一緒に行ったりするものです。

#### (2)八王子市立第五小学校での「からだであそぼうウィーク」の取組

八王子市立第五小学校では、体育の授業でも行っている「タグ取り鬼」「ティーボール」「体づくり運動」を放課後から午後4時まで実施しました。先生の他に小学校教諭新規採用予定者8名が子供たちと楽しく遊びました。

12月6日(火)は、あいにく雨のため校庭での遊びはできませんでしたが、体育館で様々な体育の器具・用具を使って「体づくり運動」で、思い思いに体を動かしました。



八王子市立第五小学校「からだであそぼうウィーク」の様子

#### (3)八王子市立第五小学校 山口 菜穂子校長のお話から



八王子市立第五小学校 山口 菜穂子校長

昔は、放課後、近所の原っぱに集まり、野球等集団で遊ぶのが子供たちの姿でした。今は、よく言われることですが、子供の遊びに必要な「時間」「空間」「仲間」が揃わず、集団で遊ぶ姿がなかなか見られません。めずらしく公園で子供が集まっていると、ゲーム機を持ってきて通信ゲームをしている始末です。

子供の体力低下は今日的な課題です。学校の週3時間の体育の授業だけでは、運動量は全く足りません。しかし、体育の授業で教わった遊びや運動に魅力があれば、運動の日常化につながります。今回扱った「タグ取り鬼」「ティーボール」「体づくり運動」等は、放課後や休日の遊びにも活用でき、普段から体を動かすことにつながります。放課後、校庭を見るとたくさんの子供たちが笑顔いっぱい遊んでいる、そんな学校にしたいと思っています。